

作者胎内十月圖上

浦山町 磯喜版



13
2946
67



へ13
2946
67

戯作者をり。羨むるものあり。人共絲瓜の皮乃やうり
思ふよ。詩歌連俳。古吏来歴。何てもよ。十九文也。
なり。そと。ハス。と。杖。と。と。は。ひ。あ。ま。り。く。も。り。弱く。實學者よ
出。あ。ひ。く。言。も。流。く。ふ。り。ぬ。と。と。瀬。の。く。尻。尾。と。ま。く。逃。に
べ。予。此。場。と。悟。ら。る。ま。の。越。國。屋。の。番。頭。范。兵。衛。が。わ。は。依
慕。し。編。蝠。羽。織。る。身。追。ま。上。田。縞。の。西。施。と。も。ふ。油。堀。の。棹
さ。し。て。齊。陶。の。出。店。の。隱。居。せ。ん。と。欲。も。も。と。と。板。元。の。越。王。あ。ま
ゆる。これ。に。據。た。く。作者。の。腹。を。ん。く。や。れ。耻。と。あ。く。出。し。て
此。草。帝。と。は。く。く。く。く。遂。に。絲。瓜。の。皮。と。り。て。生。涯。人。の。跟。を
あ。く。べ。く。嗚。呼。是。非。と。か。と。こ。哉

享和四年甲子初春

醒世老人

山東京傳戲誌





南無因果●地藏尊
 大願成
 施主 坂東三

又たまけり
 南無因果●地藏尊
 大願成

大願成
 賽錢



南無因果●地藏尊
 大願成
 施主 坂東三

又たまけり
 南無因果●地藏尊
 大願成

大願成
 賽錢

一月

この一月は... (Vertical text describing the month's events)

二月の... (Vertical text describing the month's events)



... (Vertical text at the bottom of the right page)

... (Vertical text at the top of the left page)



... (Vertical text on the left side of the illustration)

三月

三月の初めに... 無量寿如来の御成道... 如来の御成道... 如来の御成道...

無量寿如来



如来の御成道... 如来の御成道... 如来の御成道... 如来の御成道...

如来の御成道... 如来の御成道... 如来の御成道... 如来の御成道...

如来の御成道... 如来の御成道... 如来の御成道...

摩訶天



速疾鬼

如来の御成道... 如来の御成道... 如来の御成道...

如来の御成道... 如来の御成道... 如来の御成道...

三月め

持病菩薩

三月めはくつしつうのつら
くつしつうのつら
まふもつら
にせつしつうのつら
とせつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら



おそくは
おれが
おれが
おれが

四月め

工面菩薩

四月めはくつしつうのつら
くつしつうのつら
まふもつら
にせつしつうのつら
とせつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら
はつしつうのつら



おそくは
おれが
おれが
おれが

40

五月也

五月の月夜に
梅の影をみれば
五月の月夜に
梅の影をみれば
五月の月夜に
梅の影をみれば
五月の月夜に
梅の影をみれば



五月の月夜に
梅の影をみれば
五月の月夜に
梅の影をみれば

五月の月夜に

五月の月夜に
梅の影をみれば
五月の月夜に
梅の影をみれば

五月の月夜に
梅の影をみれば
五月の月夜に
梅の影をみれば
五月の月夜に
梅の影をみれば
五月の月夜に
梅の影をみれば



五月の月夜に

六月

六月の月夜は静かなる夜に
 涼風が吹く中にも
 虫の音が響く
 静寂の夜に
 人々の心も静かになる

六月の月夜は静かなる夜に
 涼風が吹く中にも
 虫の音が響く
 静寂の夜に
 人々の心も静かになる



六月の月夜は静かなる夜に
 涼風が吹く中にも
 虫の音が響く
 静寂の夜に
 人々の心も静かになる

六月の月夜は静かなる夜に
 涼風が吹く中にも
 虫の音が響く
 静寂の夜に
 人々の心も静かになる

六月の月夜は静かなる夜に
 涼風が吹く中にも
 虫の音が響く
 静寂の夜に
 人々の心も静かになる

六月の月夜は静かなる夜に
 涼風が吹く中にも
 虫の音が響く
 静寂の夜に
 人々の心も静かになる



六月の月夜は静かなる夜に
 涼風が吹く中にも
 虫の音が響く
 静寂の夜に
 人々の心も静かになる

六月

八月

八月の月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。この月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。この月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。

八月の月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。この月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。この月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。



勸善思惟菩薩

八月の月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。この月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。この月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。



八月の月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。この月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。この月夜は、静寂な夜に、月明かりが照らす。

十月

十月十日... 十月十一日... 十月十二日... 十月十三日... 十月十四日... 十月十五日... 十月十六日... 十月十七日... 十月十八日... 十月十九日... 十月二十日... 十月二十一日... 十月二十二日... 十月二十三日... 十月二十四日... 十月二十五日... 十月二十六日... 十月二十七日... 十月二十八日... 十月二十九日... 十月三十日...



閻魔如来... 閻魔如来... 閻魔如来...

閻魔如来... 閻魔如来...

鬼十箇



鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇...

鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇... 鬼十箇...

鬼十箇



こころのつれづれにして
 ちかふふくしきつらき
 世のつれづれにして
 うそつれづれにして
 まじりつれづれにして
 上中下三つあつて
 るりふもつれづれにして
 上を食して下をけつて
 中を食して下をけつて
 とあつてあつてあつて
 うそつれづれにして
 つれづれにして
 まじりつれづれにして
 るりふもつれづれにして
 およろこつれづれにして



茶の湯
 のつれづれ
 ちかふふく
 まじりつれ
 るりふもつ

胸のつれづれにして
 ちかふふくしきつらき
 世のつれづれにして
 うそつれづれにして
 まじりつれづれにして
 上中下三つあつて
 るりふもつれづれにして
 上を食して下をけつて
 中を食して下をけつて
 とあつてあつてあつて
 うそつれづれにして
 つれづれにして
 まじりつれづれにして
 るりふもつれづれにして
 およろこつれづれにして



胸のつれづれにして
 ちかふふくしきつらき
 世のつれづれにして
 うそつれづれにして
 まじりつれづれにして
 上中下三つあつて
 るりふもつれづれにして
 上を食して下をけつて
 中を食して下をけつて
 とあつてあつてあつて
 うそつれづれにして
 つれづれにして
 まじりつれづれにして
 るりふもつれづれにして
 およろこつれづれにして

山東京傳戲作

あんなに世間のあつたけを
せつらふおかしき事してやうと
うといふたうこそまゝの
あつてろくかきしてんじ
ざりませぬがわらわもあ
まやとわらわのわらわん
るまはまゝとてあまもい
はひかうひとあまもい
はひかうひとあまもい

讀書丸 賣弘所京傳店

○身まゝとつてはあまのあま
心腎のこゝろあまのあま
つひあまのあまのあま
一はあまのあまのあま
○道中すあまのあまのあま

小兒無病丸

一包代百十二文
半包代五十六文
○又入りの小兒万病乃大妙薬



茶番の席
あまのあま
あまのあま
あまのあま

